

大腿部におよぼすパンタロンの衣服圧について
 福山女学園大家政 江崎恵美 ○高橋知子 高橋春子
 名古屋女子文化短大 太田寿江

目的 すでに、パンタロンの衣服圧について、後ろ股上線の傾斜と股ぐりの深さが腹部および腰部におよぼす影響を報告した。本報では、引続きこれらのパンタロンの構成要素が大腿部におよぼす影響を報告する。

方法 パンタロンの基本パターンを立体裁断から展開し、後ろ股上線の傾斜角と股ぐりの深さを変化させ、次のパターンについてシーティングで製作した。パターンは、基本型、股上線傾斜角 10° ・ 20° 、股ぐり深さ $+2\text{ cm}$ ・ -2 cm 、股ぐりが浅く傾斜角 20° の計6種とした。これらについて成人女子3名を対象に、立位・椅座位・立位右大腿前拳上 90° ・膝屈曲 90° の3姿勢で、前報と同様に衣服圧を計測した。測定部位は大腿最大囲から下方へ 5 cm 間隔に8点ずつ設定し、左右で計76点とした。

結果 ① 椅座位では、大腿部前面に圧迫が大きく、膝囲に近づくほど圧迫はさらに増加する。また、後面では上部に圧迫が大きく、前面とは逆に下部位ほど圧迫が減少する。② 右大腿前拳上 90° において、前拳した足は椅座位時より圧迫が大きく、他方の足では大腿最大囲付近のみ圧迫がみられる。③ 6種を比較すると、股ぐりを深くしたタイプより傾斜角を変化したタイプの方が圧迫が減少しており、傾斜角 20° の圧迫が最も小さい。④ 傾斜角 20° で股ぐりを浅くすると圧迫はわずかに増加し、股ぐりを深くしたタイプとはほぼ同等の衣服圧となる。